

専門分野: 科学史 (博物学史、気象学史)、科学技術社会論、博物館学

テーマ: 博物館は公衆と語り合う最前線 (古臭くない!)

— ジェンダー、人種、環境、イノベーション —

【授業の主旨・目的】

博物館は、収蔵品を並べているだけではなく、学芸員が、見る人に問いを投げかけ、ともに語り合う場でもあります。演習では、アメリカの博物館/展示をとおして **アメリカの社会文化** を深く考察します。

アメリカの都市や田舎を歩くと、至る所で博物館に遭遇する。たとえばシカゴのオヘア国際空港ではフィールド自然史博物館の巨大なブラキオサウルス骨格標本が屹立する。博物館は非営利団体、営利団体、大学、あらゆるレベルの政府 (連邦政府、州政府、市町村、郡など) によって運営されている。博物館は運営形態から内容まで、実に多様であり、気軽に出かけて知的冒険を楽しむ人気の場所となっている。博物館入館者は毎年約 8 億 5 千万人おり、これは、野球などのメジャーリーグ全てのスポーツ行事とテーマパークを合わせた入場者より多いほどである。アメリカ博物館協会によれば、博物館はまた、大学の研究者や教授を抑えて、もっとも信頼できる情報源としても認識されている。ものを見て世界の驚異に触れ、知識を増やすというアメリカの博物館文化は、見ることに對するアメリカの人々の思い入れの深さを物語る。自然史、人類学、科学技術、自然センター、樹木園・植物園、動物園、水族館、プラネタリウムなどの科学技術の博物館や科学センターについても、アメリカ人は他国のより頻繁に行くと言われる。(中略) 2009 年にヒットした映画 **《ナイト ミュージアム 2》** は、原題に **《Night at the Museum: Battle of the Smithsonian》** とあるように、スミソニアン協会が舞台となった (同シリーズ 1 作目の舞台はニューヨークのアメリカ自然史博物館)。

参考文献:

財部香枝「博物館」『アメリカ文化事典』丸善出版、2018: 326-327。

財部香枝「スミソニアン協会による科学の可視化戦略: 長官ウェイン・クラフの挑戦」『アリーナ』第 22 号、2019: 483-94。

【授業計画】

20 以上の博物館・美術館、動物園および 9 箇所の研究所からなる、**世界最大の博物館・研究所群であるスミソニアン協会 (本部はアメリカ、ワシントン DC)** の展示 (歴代ファーストレディのガウン、ホープダイヤモンド、ティラノサウルス、火星探査機...) を題材に、何気なく見ている展示の背景にある社会文化を理解します。担当者の発表後、全員で討論します。要望があれば、実際に博物館を訪れる機会を持ちます。

【評価方法】 発表・討論への「参加」および課題の取り組みを、総合的に判断します。

【教科書】 使用しません。

【面談に際しての注意事項】 **最初の 4 回 (各回、同内容) は面談希望者向け合同説明会となります。そのうちの 1 回 (約 10 分) に必ず参加しましょう。** 5 回目以降は個人面談を行います。合同説明会は予約の必要はありません。

【連絡先】 takarabe@gs4e.chubu.ac.jp

